

## シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数
社会学演習(1)(4)	2020	通年	火4	文学部 社会学専攻、 社会情報学専攻(情報コミュニケーションコース)	新原 道信	3年次配当	4

## 履修条件・関連科目等

地域社会、現代社会研究(2)、国際フィールドワーク論、入門・社会/特別教養(10)などを受講し理解を深めてください。

## 授業で使用する言語

## 授業で使用する言語(その他の言語名)

## 授業の概要

Global, Visionary, Clinical; Think planetary, act contrapuntally and poly/dis-phonically : まず手足をうごかし、そのうごきのなかで、自前のデータを蓄積し自前の理論と方法("うごきの場に居合わせる社会学(Sociology of Being Involved with the Field)")を練成することにチャレンジします。

"(惑星)社会のフィールドワーカー"として社会で活躍していく力を身につけるため、前期はグループワーク、夏休みに合宿、後期は論文執筆という一連の〈あるき・みて・きいて・しらべ・ふりかえり・ともに考え・かく〉のプロセスを体験します。ゼミ生有志の合同プロジェクトである「立川プロジェクト」で、院・学部・F L P(地域公共と国際協力)ゼミ有志で立川・大山団地や砂川地区、被災地での活動に参加させていただきます。"惑星社会のフィールドワーク"を行うために必要な"臨場・臨床の智"は、「座学」だけで学ぶことは難しく、「先輩職人の背中」から学ぶというクラブト・ワークのスタイルをとることが重要となります。ゼミでは"たったひとり降り立つ"と"対話的なエラボレイション"を同時に追求し、立川プロジェクトは、関与型フィールドワーク(参与観察)で自分のフィールドに出て行くための"臨場・臨床の智"を鍛える場となっています。

## 科目目的

本演習の目的は、地域に寄りそい、ひとにこころを寄せるフィールドワーク/子どもたちが「生きやすい」コミュニティづくり/〈ひとのつながりの新たなかたち〉を構想する地球規模の比較地域社会研究/自分のなかの歴史と社会をすくいとる/ともに創ることを始める/新たな問いを立てる(formulating new questions)ことです。地域社会学の創設者・島崎稔先生、都市コミュニティ論を代表する奥田道大先生の後継ゼミとして、「生身の社会(living society: city, community and region)」を"社会学する"力を身につけていきます。現代社会は、従来の「勉強」の範囲の「解決策」では対応が困難であるような諸問題に直面し、新たなかたちで「問い」を発する"想像/創造力"を持った人間が求められています。この課題に応えるために、広義の〈フィールドワークの力(たったひとりで異境の地に降り立ち、自分で道を切り開き、異質なひとたちとともに場を創る力、大切なことに会おう力)〉を養います。ゼミ生は、「フィールドで場数を踏む」努力をしながら、他者への配慮、ひとの話に耳をかたむけるコミュニケーション能力、ていねいに仕事をする力などの、「臨場・臨床の智(living knowledge)」を身につけ、卒業後は、「社会のフィールドワーカー」として社会で活躍していくことを到達目標としています。

## 到達目標

## 授業計画と内容

## (前期)

- 第1回 フィールドワークの理論的背景 「エピステモロジー/メソドロジー/メソッズ」と「価値言明」について
- 第2回 フィールドワークの調査方法論 「メソドロジー/メソッズ」
- 第3回 先行研究のサーベイ
- 第4回 フィールドワークの調査計画立案の方法
- 第5回 グループワークによる調査計画立案
- 第6回 データ収集の方法
- 第7回 グループワークによるデータの収集
- 第8回 データの分析方法
- 第9回 グループワークによるデータの分析
- 第10回 グループごとに中間報告とコメント&リプライ
- 第11回 グループワークによる最終報告の準備
- 第12回 グループごとに最終報告
- 第13回 コメント&リプライと最終報告書の準備
- 第14回 総括・まとめ フィールドワークの力

## (後期)

- 第1回 論文執筆の理論的基盤 「エピステモロジー/メソドロジー/メソッズ」と「価値言明」について
- 第2回 論文執筆のための調査方法論 「メソドロジー/メソッズ」
- 第3回 論文執筆の調査計画立案
- 第4回 「エピステモロジー/メソドロジー/メソッズ」の先行研究
- 第5回 グループワークによる論文執筆計画
- 第6回 データ収集の方法
- 第7回 グループワークによるデータ確認
- 第8回 データの分析方法
- 第9回 グループワークによるデータ分析
- 第10回 グループごとに中間報告とコメント&リプライ
- 第11回 グループワークによる草稿の準備
- 第12回 論文草稿提出とコメント&リプライ

第13回 論文提出

第14回 総括・まとめ 社会のフィールドワーカーへ

### 授業時間外の学修の内容

#### 授業時間外の学修の内容（その他の内容等）

フィールドワークとデイリーワークを重視し、授業時間外にも、ゼミのML等を通じて情報の共有と対話、合宿とグループワークをおこないます。

#### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

#### 成績評価の方法・基準

#### 成績評価の方法・基準（備考）

「参加の質」40% 報告30% 最終報告書/論文30%  
 「参加の質」は演習へのコミットメント、リーダーシップ、「汗かき仕事」を評価します。実質あるコミットメント・論文の提出が成績Cの条件となります。事前事後学習・グループワーク・レジュメ作成・コメント&リプライ・論文等に深くコミットし、他者に与えようとし続けたいとは、AやBの評価となります。逆に、自分の興味関心のみに固執し、仲間との共同作業を怠ったひとはEとなります。なお、4年次以上で履修する社会学演習（4）は卒業論文あるいは卒業研究論文の合格をもって単位が与えられます。この点をくれぐれもご注意ください。

#### 課題や試験のフィードバック方法

#### 課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

#### アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）

#### 授業におけるICTの活用方法

#### 授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

#### 実務経験のある教員による授業

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

《テキスト》新原道信『旅をして、出会い、ともに考える——大学ではじめてフィールドワークをするひとのために』（中央大学出版部,2011年）／佐藤郁哉『フィールドワーク増訂版』（新曜社,2006年）。《参考文献》新原道信編『"臨場・臨床の智"の工房——国境島嶼と都市公営団地のコミュニティ研究』（中央大学出版部,2019年）／新原道信編『うごきの場に居合わせる——公営団地におけるリフレクシブな調査研究』（中央大学出版部,2016年）／新原道信編『"境界領域"のフィールドワーク——惑星社会の諸問題に応答するために』（中央大学出版部,2014年）／新原道信『境界領域への旅』（大月書店,2007年）／A. メルッチ『プレイング・セルフ』（ハーベスト社,2008年）／W. F. ホワイット『ストリート・コーナー・ソサエティ』（有斐閣,2000年）／P. ブルデュール『社会学の社会学』（藤原書店,1991年）／R. N. ベラー『心の習慣』（みすず書房,1991年）／矢澤修次郎編『再帰的=自己反省の社会学』（東信堂,2017年）。

#### その他特記事項

(1) Playing&challengingに、「驚きと遊び心と探求心」を大切に、コミュニティの「未来」にきちんとかかわりたいひと。(2)自分がまだ体験していないことに好奇心を持って、まず自分で始めてみたいひと。(3)多少の「失敗」を「良薬」として、お互いの「ちがいを大切に、ゆっくりと、やわらかく、深く、ひととの「場」を創っていきこうとするなど、様々なタイプのひとたちを歓迎します！このゼミでやっていることは、試行錯誤していくなかで、自分で気づき、自分で学ぶ「問題発見（仮説生成）型」のトレーニングです。「答えがある程度予測できる範囲の問題解決」でよしとせず、じっくりと探求（exploring）していくことで、後からやって来る「気づき」があります。これは、自分の限界をこえていきこうとするときに有効なやり方で、試行錯誤のプロセスそのものが貴重なデータとなり、漢方薬のようにじんわりと永く効き目が続く「根本問題の解決」へとつながります。ゼミそしてフィールドでの「衝突と出会い」のなかで、「ふつう」にこのゼミでplaying&challengingにやったひとたちは、短期的に速いこととする人たちよりも、より速くまで、そして（結果的には）より早く、自分のなすべきことに到達していきます（「急がば回れ」です）。想像力と創造力を大切に、このゼミで自分を試していってもらえたら幸いです。大切なのは、どのフィールドを選ぶかでなく、どうかかわるかです。みなさんの小さな行いが次の世代にむけての「一粒の麦」ともなり得ますし、それまでの蓄積をぶちこわす場合もあります。ひとつのフィールドにきちんとかかわれば、そこから、ほとんどあらゆる問題関心に応答する力を獲得できます。慎重深く、思慮深く、臆することなく、きちんと外の世界に出ていき自分を試していきください。

#### 参考URL

#### コメント1

#### コメント2

- ①今年度の授業は、manabaを活用した資料配布、webex等のリアルタイム配信を使用するかたちですすめていきます。
- ②くわしい指示と資料は、ゼミMLにて配信します。
- ③成績評価方法は変更ありません。

#### コメント3

#### コメント4

